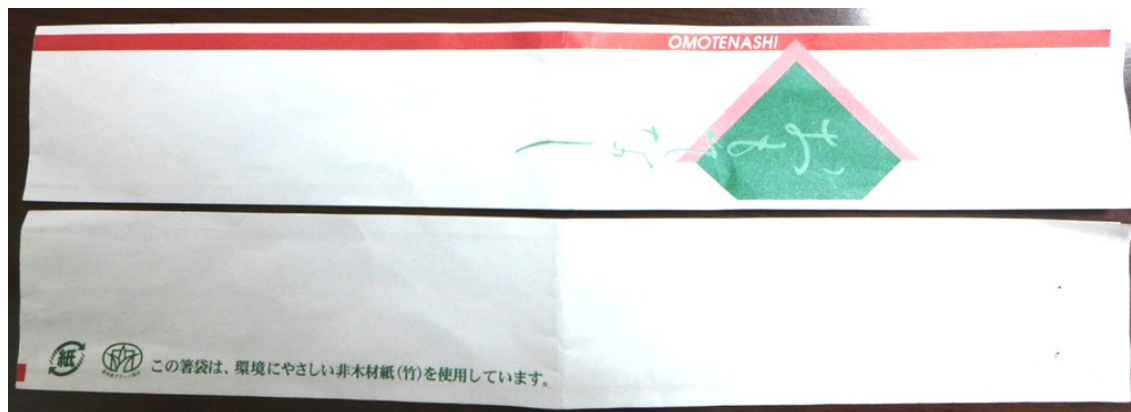


- 注1. 株式会社リコーの創業者である市村清氏がご自身の財産を出捐(しゅつえん)して設立した公益財団法人であり、市村産業賞、市村学術賞の贈呈のほか、子どもたちを対象にした「市村アイデア賞」、「キッズ・フロンティアワークショップ」事業などを行っています。詳しくは、<http://www.sgz.or.jp/> を参照してください。
- 注2. コピー機は高価であり、かつメンテナンスを要するために、多くの場合、レンタル契約で使用されています。その稼働期間を過ぎて、市場からメーカーに回収されリサイクルに送られる前に、一部のコピー機を工程から引き揚げて、この実験教室のために提供しています。2日間で、計18台の機械が分解されました。
- 注3. 写真を見てください。



この箸袋に入っていた箸は、お揃いの竹製ではなく、ポプラでした。そういえば、「はし」の漢字は「箸」で、「木偏(きへん)」ではなく「竹冠(たけかんむり)」ですね。漢字辞書を引いても判りませんでした。ネットには次のような説明がありました。箸のルーツは、「神器」であり、竹の繊維の弾力性を利用したピンセット型だったので、「竹冠」の漢字になったという説があるとのこと。
<http://hashiwabunka.com/rekishi.htm> を見てください。

- 注4. 国立印刷局のホームページには、お札の作り方があります。
<http://www.npb.go.jp/ja/kids/dekiru.html> を見てください。
- 注5. たとえば、鹿児島県鹿屋市立寿小学校ではケナフを栽培する活動をしています。
<http://www.osumi.or.jp/sakata/qa/title.htm> を見てください。
- 注6. 「稲わら」からの紙づくりについては、<http://www.kodomo-next.jp/plays/detail/178> を見てください。ついでに、ぜひ、<http://wildfunkystore.com/?pid=2513805> も見てくださいね。
- 注7. エコプロダクツ大賞については、http://www.gef.or.jp/ecoproducts/8th_result/index.htm を見てください。
- 注8. 林業白書(平成23年版)(<http://www.rinya.maff.go.jp/j/kikaku/hakusyo/23hakusyo/index.html>)には、竹紙について、
「製紙会社の C 社(本社:富山県高岡市(たかおかし))は、国産竹100%を原料とする紙製品の製造・販売を展開している。
同社では、平成10(1998)年より、鹿児島県薩摩川内市(さつませんだいし)の工場において、タケノコ生産用竹林で間伐された竹の有効活用の取組を開始し、原料集荷体制の整備や製造設備の改造を進めてきた。
平成21(2009)年には、国産竹100%の紙の製造・販売を始め、平成22(2010)年には、これらの紙が薩摩川内市(さつませんだいし)の特産品に認定された。また、平成23(2011)年には、同社の竹

紙が、環境負荷の低減に配慮した商品・サービスを表彰する「エコプロダクツ大賞」において、農林水産大臣賞を受賞した。

同社は、現在、竹の収集エリアを九州全域まで広げて、年間約2万トンの集荷体制を築いており、紙の製造・販売を通じた竹の有効活用を進めている。」と、コラム欄 (http://www.rinya.maff.go.jp/j/kikaku/hakusyo/23hakusyo_h/all/a54.html#j1) に記しています。

注9. 米村でんじろう先生の記事は、<http://www.jpa.gr.jp/about/pr/pdf/yonemura.pdf> を見てください。

おまけ：朝撮りのメジロと寒緋桜(カンヒザクラ)

今朝、通勤途上、北の丸公園で撮った「メジロと寒緋桜」の写真です。ほぼ満開になった寒緋桜の「おしべ(雄蕊)」を、むしゃむしゃ食べています。宙返りして食べるなど、あまり行儀作法は良くないですね。でも、メジロにとっては、この時期だけの、つまり旬のスペシャル・ブレイクファストなのかもしれません。

